

夢想兵衛胡蝶物語前編

貳

~13  
3845  
2



夢想兵衛胡蝶物詰卷之二

東都

曲亭馬琴戲編

色慾國上品

慾之色おぼとくく大おほ多たととと。國くに君きみああととかかああ小こ爵しやく位ゐをを捧たげげとと死しとと。

隣りん國こくはは削けぎぎれれ。息ち子こををままがが為なりりとと上かみとと秋あきままとととと死しハハ親おや族ぞくをを挽ひききとと。

とととととと。戎あゐとと千せん両りやうのの角かく屋や敷しきとと一いつ夜やのの飲いん樂らく小せう踏たふ潰つぶせせととももををししとと。

戎あゐハハ五ご十じゆ年ねんのの姓せい命めいとと。二に十じゆ一いつ期ごハハ情じやう死しとともも恨うらみとととと。ささハハ志しとと生なまとと。

大おほ慾よくハハ近ちかきき患うれひひああるるもも。遠とほきき慮おぼののああららるるべべしし。ささハハ志しとと生なまとと。

そそ一いつ活いけけりりめめ。いいづいままりり色いろをを好あままししむむ。妻つま恋こふふ。廉あやハハ笛ふえよよあありり。燒やけ野ののの維ましし聲こゑ。

小こああととへへまま。蔽か衣いのの縫ぬいいめめハハ隠かくるる風かぜ也也。北きたをを負おつつてて花はな見みよよ出でけけ。備そと家けのの屋や。

根ねよよつつくくむむ猫ねこ也也。友ともとと挑たここむむ。月つき夜よハハ呻うなひひ。北きた狗いぬをを追おひひ。白しろ玉たまハハ乱らん走そうとと。

東都物語卷之二

水とくけりく火厭ひど燈燭より夏虫と惑溺く火よ入るるを  
 怖ど鬼の女房は鬼神あり割洞は因蓋あり矮雞の内儀の大不  
 器量蚤虫の嗅象のふらちやう廢るぬも色あうのまこと鯨の貝の片  
 比目魚の大湿う鮫河豚の悪女で鮎の味阿漕が浦より鯛も鯉  
 ぞ積りて濃汁よ烹くくひとめり有り情の殊さ非情も高砂の  
 松夫婦と現は化野の薄ぼの字と招くも末の尾花の九十九髪浮世の果  
 小町も悟てくま即色是空くかふく大食とれば竟は脾胃虚  
 の患ひあり睦く死て荒淫れば可憐女房を若後家はて比翼も像見  
 の紋とくろく送り連理の枝も頭もつろく美人の骸骨あり甲斐  
 あり他の弓の彎べく代馬の騎べく代他の情鼻で相撲とくろく  
 代の家くあへ指でもさくろくと國禁法度嚴まる由禁トが死この道ある

この色慾と絡うううの國やあんと愛想を傷ハ紙鳥の  
 上う下界と遙く直下目バの困固く廣大く上品中品下品とくろれ  
 して男女ハ十五六より二十五の曉と一期くを男ハやう衣紋と緋女ハ  
 ちう小尻を拵日髪日粧日焼餅いごこの結とほ勿論一本の伽羅の油ハ  
 一度よつひ足とど半日の洗湯ハ笈とりう迎ひとけ男も裙と踵で  
 うこそ綿ハ落く入まぐ協燭の網のどく帯ハ廣くて海老網ハ帆をう  
 されハ上品領は住む人ハ家鎌着属鞍ありて男ハ束帯あくる由あり水  
 子よ立烏子あり看るがく小刀はくもあり女ハ五衣は緋乃袴  
 或ハ襦又下髪あり振袖の括り目厚縵さげて五月の茶玉んれ  
 ちうよひつせ兩天の花挿頭ハ頭かちうは是見く嬉しのとつてハ  
 歌とよ悲いとつてハ奇と録くるんどのをくあはうり文句とくや

世々おん生得巻二二

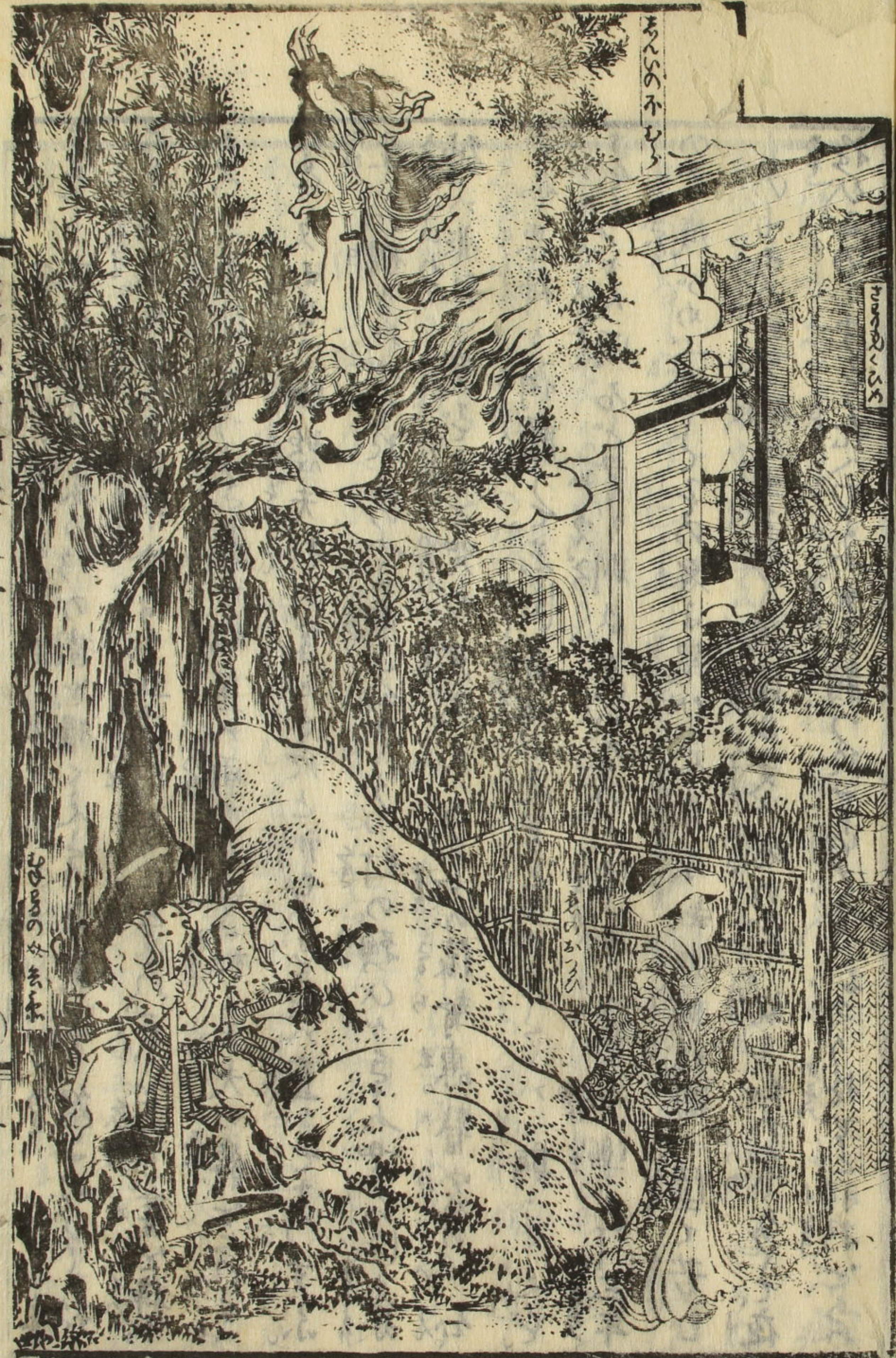
二二



祿もこれと尻がまぐの隈も課もど。きよの末のまげぬ恋も。或は名聞  
 を好む才弁女。うねてより。思ひしよりよみ。茶の。るむりある。なみれせん  
 といと祿もど。あまう人よ。せせの格別の余情あり。化る男と化は契り  
 て捨つまぐ。後よこそ。と浮気な男よ。とえ膳しく。たろと浮名。のうら  
 愛想づ。とるぶ。そりくされて。まう。とて。めくみ。歌と。その夫  
 へ。つて名譽と。るゆめり。こま。の一首の歌。もよ。か生涯と。痴め。のま  
 と。のど。一夜。の。君と。つ。一心。命と。花。傍。男と。同日の。終。この  
 上品。領。生。女。顔。色。由。け。揚。舌。気。嫉。妬。も。せ。又。傍。ま。れ。ど。口  
 様。く。い。ひ。も。出。さ。び。日。は。三。度。夜。は。三。度。瞋。恚。の。焰。を。燃。ま。と。天。狗。道。乃  
 苦。し。ま。よ。の。身。す。て。本。妻。と。壁。妻。の。頭。髻。か。假。寐。し。隙。は。蛇。と。る。れ。ば。  
 夫。由。あ。れ。ま。久。ろ。と。怕。ま。の。景。迹。は。氣。と。吞。ま。と。下。の。口。と。高。野。へ。登。り。

一生。行。ひ。の。ま。ま。と。あり。才。色。両。全。の。姐。己。う。う。家。が。此。ま。と。忠。臣。の。神。三。六。半。城  
 小。由。聽。入。ま。ど。祭。の。そ。バ。杖。手。う。ち。と。る。その。ん。え。と。ま。う。な。う。と。辣。あ。や。あ。ぬ。家  
 臣。の。中。に。箕。四。郎。ハ。奴。と。る。比。干。兵。衛。ハ。胸。と。裂。ま。その。圃。に。び。と。忠。臣。の。名。と  
 ぞ。む。も。迹。の。祭。り。神。も。佛。も。え。う。だ。り。も。い。バ。昔。少。ハ。似。ぬ。故。是。野。妻。ハ。女。子  
 の。氣。と。ま。ま。バ。女。房。ハ。妻。の。あ。ら。ま。と。い。ど。知。ら。ば。ま。ま。ぬ。中。ま。ま。互。ひ。ま。始。と。り  
 角。つ。れ。あ。ひ。所。と。悪。入。つ。け。ら。ん。で。科。ゆ。る。も。蒙。人。形。又。四。十。八。本。の。行。と。打。つ。は。庭  
 の。松。蔭。へ。埋。ま。か。ら。ま。紙。見。物。と。主。役。あり。是。で。ら。ゆ。ぬ。と。一。ト。必。葉。自。身。は。馬。と  
 の。あ。り。土。と。ま。れ。う。と。天。窓。と。脯。燭。と。は。丑。の。時。ま。なり。と。出。う。け。ま。ハ。ハ。乃  
 鐘。ご。ん。く。と。鳴。ま。り。樹。の。梢。と。う。風。の。さ。さ。く。と。音。と。と。え。あ。げ。ゆ。ま。ぬ  
 高。足。駄。自。装。束。は。髪。あり。乱。と。ま。ぶ。支。度。く。甚。辛。あ。り。兜。て。入。り  
 見。ま。す。の。と。と。る。ま。つ。ひ。や。う。く。社。内。は。歩。ま。り。夏。向。自。瓜。買。や。う。か。あ。り

目下可入

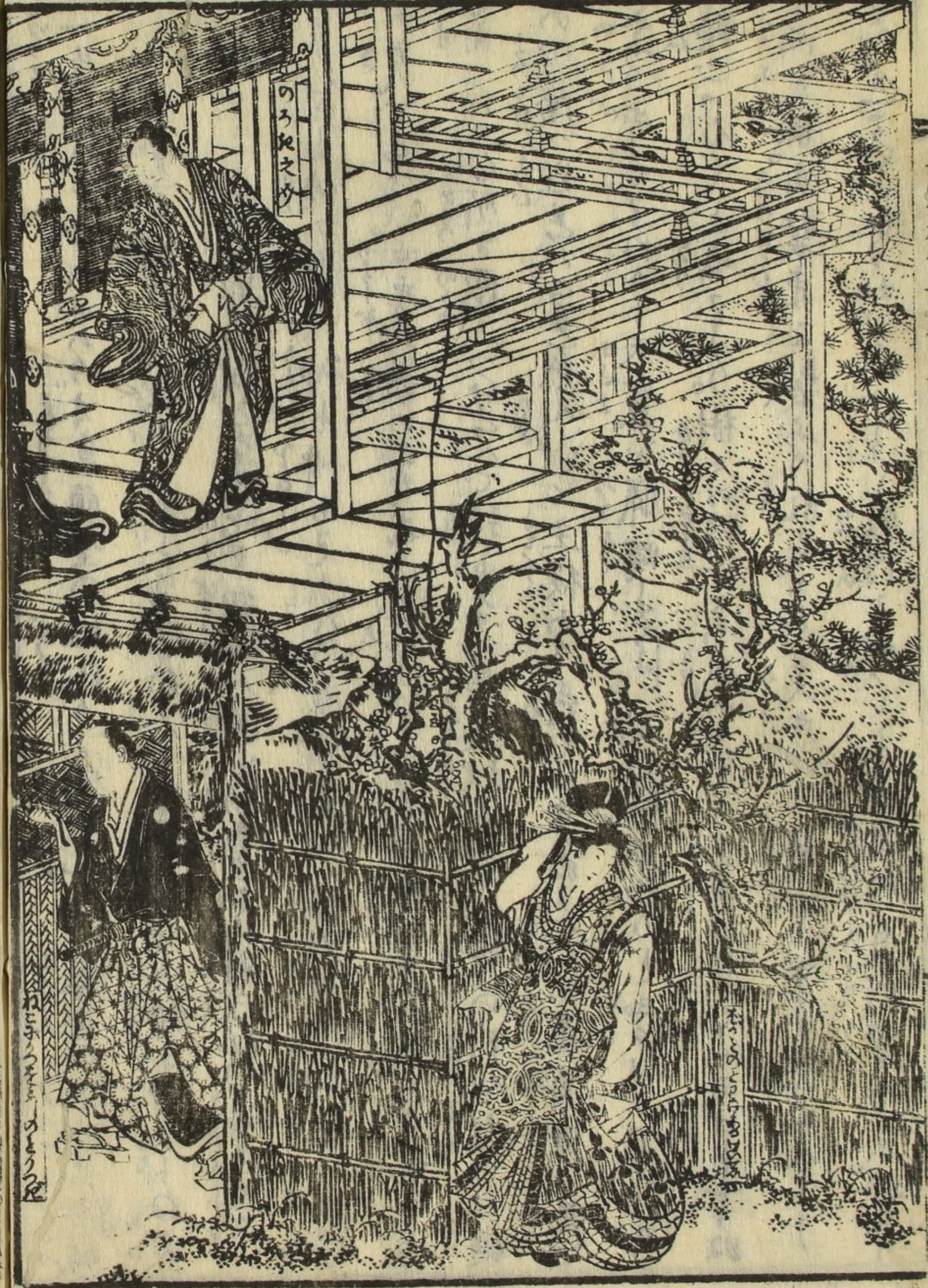


あいのふし

あいのふし

あいのふし

あいのふし



並木心井備後

のうたえみ

あいのふし

あいのふし



又その鄰は何がどい。これ由同じ後者あり。公操りり容色りり。中ふるの  
 本妻が。鼻よりつくとて妻が。壁を隔て彼増花と。明くも暮ても離  
 らぬ。出てもけが。本妻を強顔と。恨もせど。鄰坐敷乃  
 睦言を。夢てある。幸防つら。折し由秋の長き夜。風かりて。麻の  
 声。西より吹きて。つら。本妻の。咳らり。憎く夫  
 の妻の名を。呼て。西の秋。あて。妻。小象。る。麻。ゆつ。ま。あ。の。声。を。夢。て。い。つ。と。  
 羨し。あひ。あ。や。い。つ。あ。と。同。が。本妻。い。つ。い。せ。で。い。れ。も。あ。る。あ。れ。て。人  
 小。あ。ら。し。今。こ。そ。外。よ。声。を。の。と。け。と。口。吟。ら。り。れ。バ。夫。ハ。忽。地。感。は。堪  
 かく。や。で。我。の。妻。よ。つ。ま。り。り。い。れ。る。が。天。魔。の。所。為。あ。り。り。ん。と。て。  
 忽。地。備。室。を。追。ひ。出。し。り。と。本。よ。ま。さ。ぬ。浮。気。を。止。く。昔。よ。か。ら。ど。睦  
 く。夫婦。共。向。髪。よ。る。ふ。あり。愛。想。兵。衛。ハ。この。景。迹。よ。あ。ら。ど。も。大

息。吻。れ。固。は。女。の。妬。忌。る。れ。ハ。百。の。拙。さ。火。掩。ふ。と。い。り。人。の。性。の。さ。る。る。も。慾  
 小。引。き。悪。と。る。れ。ど。物。は。觸。ま。く。感。激。と。れ。を。元。の。名。を。い。つ。ら。り。と。る。太  
 鼓。の。撥。の。あ。ら。り。が。百。里。の。難。と。ま。る。船。も。一。家。の。内。を。ま。く。ら。妻。も。只。楫  
 の。り。や。ら。む。ら。和。を。浮。も。水。和。を。覆。も。水。あ。ふ。新。さ。と。河。さ。ひ。の。柵。の  
 枝。は。雪。お。り。け。あ。れ。バ。貞。女。ハ。家。の。宝。美。妻。ハ。身。を。殺。斂。し。ひ。と。夫婦。ハ  
 人。の。大。倫。あ。く。天子。諸。侯。も。あ。ら。り。の。妻。も。卷。耳。ハ。固。り。后。妃。の。徳。関  
 睡。ハ。樂。ん。で。淫。ご。と。い。り。只。後。る。死。か。不。考。る。と。バ。七。云。の。罪。ゆ。子。も。此  
 ハ。去。る。子。も。と。い。ど。も。賢。あ。り。て。父。母。ハ。順。る。妻。ハ。去。ら。ど。と。是。ハ。換。り。妻  
 と。り。ハ。妻。を。娶。ら。む。妻。を。養。も。枕。の。塵。を。拂。し。て。房。ハ。快。楽。を。と。る。為  
 み。あ。ら。ど。子。種。を。あ。ら。と。田。地。あ。く。入。他。さ。ぬ。物。も。さ。バ。地。面。を。ひろ。く  
 り。ら。て。も。益。ら。り。あ。ら。る。瓜。ら。の。習。俗。も。て。標。致。か。ら。て。賢。く。て。子。の。あ。れ



妻が鼻よつくとく。女護のつるど女子とあつめ。彈せり。嘆せり。舞せり。不養生けが慕あつて命を搔減する。只一本の鯉節より速く。脾胃共は虚しく美人共は仇とる。十五の曉を一期とく。十萬億土へ旅うると死の義女も道つとあひるる。妻子珍宝も禪へ結びあつてあつて福の鄰家あり。禍あり。樂の死屍の哀もなり。死生命ありとく。不養生とまへ命を待て。君の死生も死あり。あつて病ひと惹き。病か重なる。茶三昧。ことあるぬあ。ゆき月と。禁好物の君の幸訪ひる。些をうり。ハ大なるあつて。醫者。毒をさくして毒をあつて。さくすとすらとる。醫者ハ病を愈さうとる。毒断さうハ雅かろ。り。鬼の毛で突と行も。牙と可愛とあつる。醫者か訓と毒断のやあ。あつとる。

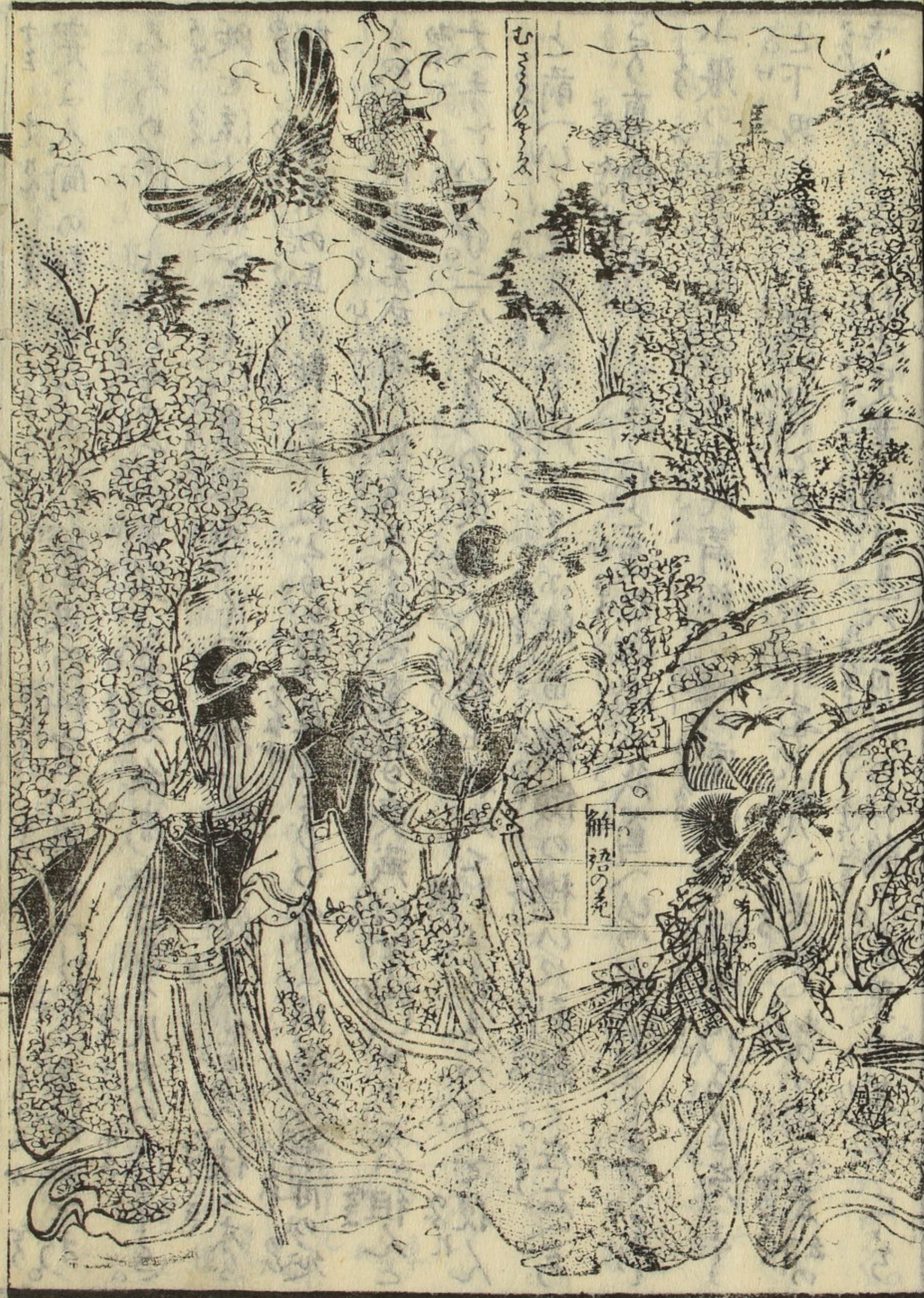
已心とく。醫者さくして毒断と破るハ。ア身と他人さく。他人と身は。耳と寒く。鈴と盗むる。の。茶ハ飲みの甘の幸の胸。アくる。アとつて。肩と口と含め。元日ハ茶粥と出さ。五節。休業して灸治ハ曆。先へ。年日。血忌ハ。海天樞とく。寅の日ハ十九とす。兎腹龍股席背ハ画とく。人のいふとく。灸治ハ已心とく。良茶ハ口と。病と愈。直言ハ。又。年日。毎年。その月の。生。當日とく。又。年日。子。年。生。子。日。勘定。入。算。盤。日。擇。病。の。發。日。擇。元。日。年。日。

かも。頓病頓死とんびやうとんし。入いるハ居いるまじ。あつた日ひと擇えらぶ。医いをえり。時ときを忌いむ。毒どくと已いむ。病びやうハの癸みぬ。ぬれよ。由よし。兼かみけの灸しう治ちる。ば。目めも時ときもゆるく。糾きう致ちる。天てんく晴はる。日ひも艾あをえり。火ひを清きよく。粥じやくのちがぬ。やうよ。息いきありさきく。その日ひハ酒さけ飲のみぶ。兩りやう三さん日にちハ浴よくせり。七日しちにちハ同どう房ぼうる。慎しんむ。糠こが生せいる。げき。身みも應おうげぬ。穀こくも。あ。塩しほぢら。火ひの物もの断たる。灸しう自じ調てうと。美みる。端たん婦ふハ四し花はなをえ。さ。背せハ眼めのろい。不ふ足そくく。ひ。めを羨うらやむ。交かう治ちせぬ。ま。ち。夫つま淫いん樂らくハ悪あくく。糞ふん生せいハ豆まめる。悪あくハ進しんむ。ゆ。日ひとえり。音ねハ進しんむ。あ。日ひと擇えらぶ。其その甚しんく。や。學がくて八十はちじゅうる。耶や彼か。牽けん牛ぎう花はなの種たねと乾かて。亦また來らい年ねんも蔣しやうて。あ。ま。不ふ足そくく。い。の。冷ひや咲さひ。桶ぶくへ腰こしけり。年ねんも不ふ足そくく。い。人ひとの聖せいの

命いのちも。又また來らい年ねんの秋あきを。あ。思おもひ。簡かんと。げ。ま。む。の。ら。い。が。あ。り。の。ま。と。て。死しま。い。の。ま。じ。と。老ろう少せう不ふ定ていか。世よの。あ。い。と。生なまま。と。出いで。ハ。遅おそく。速はやく。死しね。る。ま。じ。と。其その臨りん終しゆうと。あ。や。聖せいや。五ご十じゅう年ねん六りく十じゅう年ねん後ごの。ま。じ。と。怒いか哀あ樂らく。三さん五ごの。命いのちが。ま。じ。と。幸さいと。又またね。居いる。一いつ日にちも。ま。じ。と。あ。の。命いのちと。ま。じ。と。聖せいの。ま。じ。と。孫そん子しの。代かの。ま。じ。と。あ。の。人ひとの。為ために。か。ら。ん。る。ま。じ。と。あ。の。後ごま。じ。と。あ。の。朝あさ。道みちを。あ。の。夜よ。死しと。ま。じ。と。あ。の。聖せい人にんの。宣のたまふ。ま。じ。と。あ。の。七しち年ねんの。河か後ご。三さん度た。あ。の。門かどと。素すぢ。あ。の。ま。じ。と。あ。の。功こう。津つの。ま。じ。と。あ。の。千せん万まん年ねんの。後ご。あ。の。民たみ。あ。の。ま。じ。と。あ。の。德とく。今いま。あ。の。衰おとろへ。禁かぎ封ふうハ。後ごの。ま。じ。と。あ。の。當たう坐ざ。あ。の。ま。じ。と。あ。の。普ふ請しん。酒さけ池い肉にく林りんの。ま。じ。と。あ。の。切き。あ。の。ま。じ。と。あ。の。







寔は人間の飲命を極り。慾界の仙宮の外はあじ。と忽ち我を折。  
 ちろめじくくえと今中を小言ひよ。夏夜兵衛もささる凡夫の浅才。  
 既と流し。眼をそじ。鼻息あしくつまつ。えさしくよきをそれ。佐之本が  
 欺く梶原の馬の鞍はあねづも。おの鼻毛とりうとも。紙鳶の糸目の延  
 と紙をば。彼若武者の血気まうて。奮怒突敵時。サアその組んと  
 大手をひろげ。二八むろの美婦人が襟上松んで。よとまは。身を脱ん  
 と前へいく。互に曳せと。川らう。小浅黄。嶺の襟ひれ。形離く。左右へさ  
 さら真仰向。やうまう。ねと。夏夜兵衛。紙鳶へひつ。うまう。えく。えく。  
 小張の糸まう。忽然と片荷降り。啞の雷。さう。業内。あまう。  
 と下段へ落。腰の骨を。あま。打。う。えと失ひ。おの。名。夏。幻。の  
 境とあ。と。それ。と。定業。場。ま。三。月。以。の。杜。鵲。が。若。葉。は。蒸。く。ら。ら。う。

おて。ひ。う。で。よ。息。吹。く。あ。う。と。え。ま。ば。ひ。の。外。夏。人。の。中。一。落。く。は。く。  
 草。茫。々。小。松。原。よ。身。を。お。れ。て。ま。う。居。う。橋。と。滑。海。船。の。帆。  
 柱。は。彷彿。う。流。ま。う。の。悲。う。鳥。屋。は。著。る。鞍。馬。天。狗。羽。衣。取。  
 ち。て。天。人。あ。か。う。今。の。身。の。之。紙。鳶。は。飛。ぶ。と。や。う。落。う。や。う。杖。  
 ふ。る。ま。う。不。感。都。路。を。追。ひ。失。ふ。と。林。和。靖。も。ら。れ。不。と。あ。の。ま。い。と。  
 後悔。の。詮。注。ま。う。む。久。米。の。仙。人。が。布。を。晒。と。女。の。腰。の。白。糸。  
 人。惚。生。て。忽。ち。通。と。失。ひ。大。俗。凡。夫。は。劣。う。白。物。多。う。と。日。麻。吟。  
 笑。か。面。因。る。や。人。あ。本。の。そ。う。竹。の。折。是。の。ま。う。と。朝。寛。上。人。も。  
 牙。の。ま。か。寺。の。寺。の。京。極。の。御。息。所。は。寛。く。玉。の。緒。と。珠。教。を。断。  
 三。諸。の。山。は。迹。無。の。ひ。大。物。主。の。大。神。も。意。の。帯。環。う。久。さ。ま。倭。迹。  
 迹。日。百。龍。表。姫。命。の。匙。を。枝。も。ひ。例。も。あり。口。も。と。調。宝。も。物。も。く。人。



但し平清盛歿り。里男とて。年々。在吾中将。光源氏  
の面々。芳らぬ。上。あ。り。の。で。あ。り。て。稱。ど。を。ち。ぢ。ぬ。之。面。が。見。え。  
と。見。れ。と。忘。れ。と。言。積。設。の。刺。で。額。や。項。を。撞。中。が。も。る。も。思。ひ。  
ぞ。や。あ。り。や。垣。の。破。れ。め。首。を。と。も。ほ。ぐ。と。見。ま。は。さ。い。る。亭  
主。は。ま。る。び。し。白。髪。阿。蘇。の。ま。は。ら。び。や。と。二。度。び。つ。り。り。る。意。心。困  
む。と。切。ち。の。紅。裏。へ。刺。衣。の。表。つ。け。と。あ。り。る。も。さ。も。つ。り。合  
ぬ。夫。婦。と。小。腹。の。ま。ち。吐。け。ば。翁。の。表。を。信。と。見。て。あ。り。不。審。や。今  
吾。妹。子。が。彈。琴。の。調。子。忽。地。濁。り。し。ム。ウ。と。又。又。一。下。必。葉。あ。り。と。我  
の。中。で。竊。に。窺。ひ。舞。者。あ。り。誰。と。見。て。糸。と。仰。は。従。ひ。前。方  
禿。の。女。の。童。が。對。の。あ。り。袖。二。人。づ。と。駈。下。駄。く。く。切。戸。を。開。く。爰。想  
兵。衛。が。袖。を。引。き。モ。シ。え。り。の。で。は。え。せ。ぬ。油。虫。と。い。ふ。あ。り。あ。る。竈。う

生と。ハ。生。垣。あ。り。り。の。さ。り。る。を。か。し。る。ど。ん。と。う。へ。内。へ。の。り。て。孔。雀  
と。ん。の。が。茶。を。あ。げ。れ。サ。ア。と。い。え。と。引。き。ま。は。爰。想。兵。衛。の。痛。し。入。り。  
首。を。ぬ。ふ。と。と。れ。ば。あ。り。悲。し。や。積。設。の。刺。で。め。り。と。あ。り。と。た。と。す。は。  
入。れ。ば。帯。の。結。び。日。を。あ。り。し。も。り。痛。さ。苦。さ。た。ら。ふ。と。あ。り。の。垣  
と。り。し。た。り。行。法。は。る。い。軟。ま。り。待。多。と。賄。結。て。も。ら。る。と。情。を。あ。り。  
女。の。兒。と。も。弱。腰。丁。と。引。き。ま。は。備。の。ぬ。る。と。一。旦。を。ま。り。の。り。し。も。霽。と。雨  
あ。り。と。び。つ。た。び。つ。た。び。つ。膝。の。あ。り。と。蹴。揚。の。泥。の。及。つ。汚。さ。つ。起  
あ。り。只。少。女。あ。り。と。や。う。く。と。税。の。項。の。蚯蚓。腫。赦。免。と。偏。と。俊。寛。が。  
壁。所。に。お。る。と。女。の。童。の。迹。と。眼。を。も。緑。燈。と。踏。踏。が。主。の。不。羽。葉。上  
う。ら。み。天。と。い。う。爰。想。兵。衛。を。維。と。あ。り。と。ん。と。や。見。忘。れ。と。軟。と。云  
る。声。は。笑。と。や。し。や。と。の。こ。境。つ。ぐ。と。見。ま。は。り。牧。の。船。の。中。で。假。寐



ありと枕上よりまじりて  
 嶋太郎又寸分りなきほど。おろくば女  
 八回とてまじりて蓬萊仙。こまけり。と膝をうら。打てめりり  
 此対面。面目ゆる死仕合と。おそれりて敬ままへ。浦嶋はちうくと  
 後世兵衛を招けりて。玻璃の四又堆高く登り。解や。菓子  
 中。名もまじりぬ。肯い物を食くと宣ふ。あるるはそれり御意はし  
 一ッ食ふ。と。中腹は満て忽地これのけし。疑ひはる。母もまじり  
 持病の理屈がゆい。うて且く口をめぐり。甘く堪う。ねておろくば対ひ  
 疑ひなまじりハ。似えれども。某豫て。日本紀ある。雄略紀も。久遠。浦  
 嶋が。の紙考へ。まじり。日本後紀卷の十七。淳和紀をえて。少い。よ。君ハ雄略  
 天皇の二十二年。秋七月。蓬萊宮に赴き。三百四十七年の長延。淳和天  
 皇の天長二年。冬十二月。丹後の水江にまじり。玉手宮を同。中。行ふ。忽地

皓白。衰老の人と変し。去りて死す。い。いと。く。も。人。と。まじり。記  
 され。この外の古書。万葉集。扶。本。略。紀。童。蒙。抄。も。久。遠。も。人。を。同。い  
 赴る。まじり。恙。も。まじり。まじり。り。幽。霊。も。まじり。や。とい。ハ。せ。も  
 あり。と。冷。笑。ひ。それ。の。まじり。と。まじり。て。その。二。と。まじり。ぬ。不。穿。鑿。釋。日本  
 紀。丹。後。風。土。記。と。まじり。伊。与。部。鳥。養。與。謝。群。司。文。を。撰。り。て。興。子。の  
 子。代。記。と。まじり。と。まじり。え。え。と。丹。後。風。土。記。ハ。勿。論。その。浦。嶋。子。傳。とい。ま  
 り。の。今。ハ。亡。び。て。傳。へ。ね。バ。世。の。人。只。日本。紀。日本。後。紀。に。據。て。疑。念。を  
 紀。まじり。の。あ。まじり。か。彼。浦。嶋。子。傳。まじり。り。て。國。史。も。收。め。り。まじり。る。まじり。又  
 續。浦。嶋。子。傳。とい。まじり。古。書。も。三。百。餘。年。の。後。水。江。に。まじり。り。と。記。す。  
 浦。嶋。か。子。悦。惚。と。まじり。と。日。を。弥。り。後。又。形。と。煉。神。と。願。ひ。巖。阿。ま  
 棲。息。す。て。終。り。西。次。志。と。まじり。と。あ。まじり。ハ。仙。人。まじり。り。と。性。ハ。澄。据。まじり。

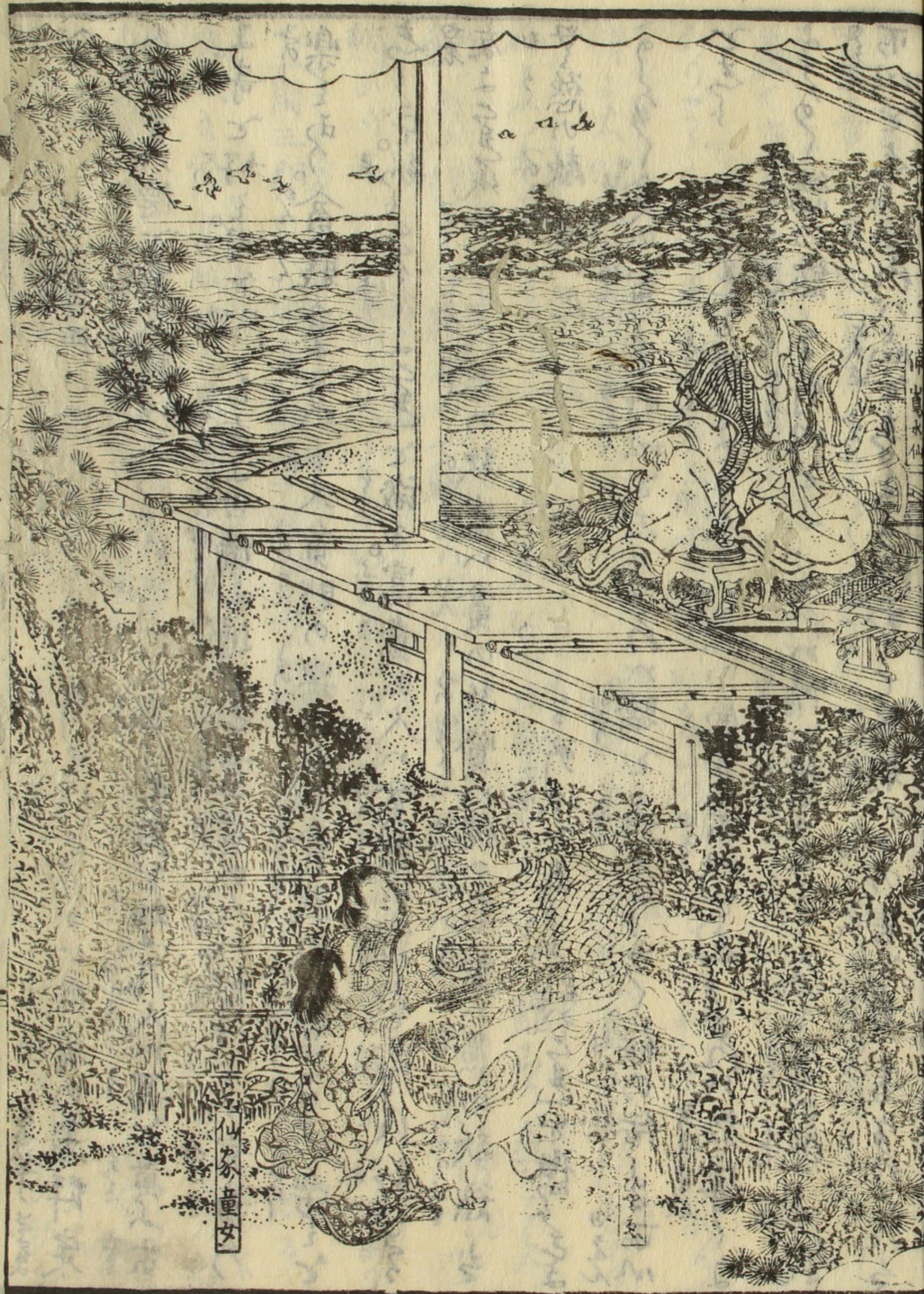
書を博く覧ねば一生のハ鮮ぬりのあり。いけがめなる幼學問ハ  
 経史を誦してはて雜書を博くあけ。類書より技を以て。動も放り  
 驚りありあり。こゝ小一學び。大に驚り。些なかり。知るゆゑよ。  
 急らう惑ふあり。その俗眼にて。嗚呼。年不足  
 もるいよ。まづつさるる。美女を左あし。琴瑟を右よる。誘い  
 年老の冷水身。あつて。今と。其のこゝろ。ハ既定で。遊  
 る。ところよ。さげ。年より。大病人の女子の。抱で  
 る。けし。バ。水。か。告子。い。の。を。動。孟。亦。四。十。は  
 て。を。動。と。つ。女。を。財。宝。を。也。幼。動。と。の。と。る。ば。ま  
 り。が。慾。を。拉。ぎ。恥。と。ある。と。夫。と。一。あ。う。ら。ば。不。弟。の。室。と。こ。ん。て

由。これと。美。く。その。寵。媚。波。ハ。此。の。妻。子。を。入。り。も。その。美。を。飲。ん。ど。  
 袖。褻。と。い。ふ。も。徳。も。り。て。人。の。頭。よ。ま。ん。と。成。形。ハ。利。を。争。ひ。て。好。む。  
 破。り。親。族。を。辱。て。他人。を。愛。し。貧。賤。を。侮。て。威。勢。は。著。亦。と。い。う。  
 う。や。他。の。妻。よ。私。を。め。り。為。損。と。う。牙。の。破。滅。を。と。い。ふ。と。  
 志。づ。る。み。あ。い。ぬ。ハ。狐。ハ。油。氣。を。見。て。涼。ある。と。成。睡。り。魚。ハ。蚯蚓。を  
 見。て。狗。ある。と。成。走。り。る。慾。を。拉。ぎ。と。成。る。と。あ。ら。う。と。い。ふ。ハ。涼  
 み。の。り。ハ。セ。ん。狗。も。吞。み。と。成。慾。ハ。倒。して。危。き。成。志。や。友。ハ。明日  
 ハ。獸。店。の。簷。よ。つ。と。魚。屋。の。組。板。よ。の。は。る。と。一。時。の。利。ハ。ま。て。千。載  
 の。名。を。汚。し。六。の。慾。ハ。志。あ。り。て。百。年。の。命。を。隕。と。成。る。ハ。君。子。の。禍  
 と。よ。る。一。少。ハ。小。人。と。道。を。福。と。成。君。子。の。憎。む。ハ。小。人。と。道。を。好。む。者  
 ハ。塗。田。兒。ち。ハ。女子。を。と。い。ふ。と。公。が。動。く。や。好。く。う。り。つ。と。と。ん。と。て。大

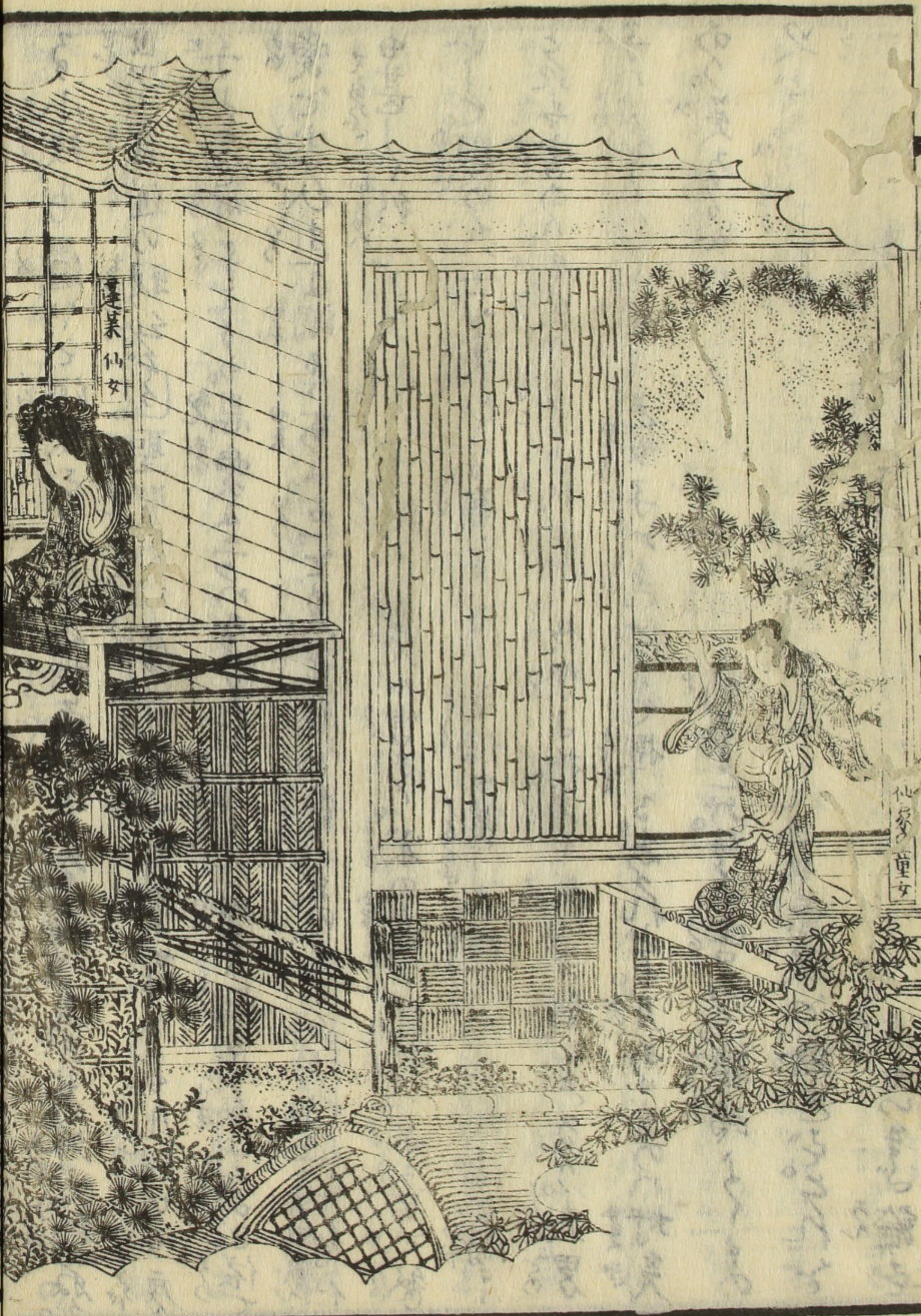


慈母 所以の物の中 育てらるる。ゆゑに又ヨク生れ人へ訓されども  
 手介半波の言をきけ。異邦に生れ人へ訓されども馬無事にて坊をあげ。さ  
 ぶらうて富貴の家よ生る。ゆゑに物いひさまも賤しく。貧賤の家よ生る  
 りの物いひさまもいと賤し。又より育習が性とする。あるはさうして訓ても  
 ぬぬりのこと。孟母もさびく店がえといふ。さうして子と申の外由も  
 ぶ内で抱ぶと狐第一よまうけさへ。さうして近所へ出うけても友がはいゆえ  
 かりかりとに自れ。内よ尻の居ると卵養の鳥の給と出ぬはあやう。あや  
 手段とありあう。押入と曲突のぬれおをさうて又さへ僅三を飲四五の席  
 薦ゆる。敷きぬ住居と居候と又その心もさうして孝行ある子をあつて。人よ  
 哭きぬ。美しき奴も。かの子のあやうよ大人への奴又案トあつて。病ひでも  
 出せると飲経命へのさうと。さうして昔あつたけさへ勿論の

る小残も遠いほど酒飲む。ゆゑに又調落あはるはよと。その外を飲ぬ。か  
 世俗普通の親ゆ。聖賢の。房子どもと可愛がるも。凡人の女房  
 子どもと可愛がるも。思愛もさうして凡人への愛は濁る。なよ愛は依て  
 愛を宝ひ。まよ濁る。あよ色をとりて身と喪ふりのもあつ。さへ給仁  
 由甚しく。初んとて和仁。深々と死の害あり。宋の襄公が。教の小事を教  
 ぶ。と。駟の兵士を失ひ。類とさうして。義信も甚しく。初んとて。義信は濁る  
 と。死る害あり。尾生が女子と約束。橋梁は抱著て死する類とさうあり。夫男  
 子ハカをとりて。奉とて女子ハカをとりて。擇む。あれどもカあるものハ灯気  
 あり。美るる女ハカをとりて。淫あり。彼は利あつた。さうして害あり。鸚鵡よくもの  
 又ども。病をもと。離れども。凡人聖賢への口まね。さうして。愚癡と離れども。それを  
 説と。極めて。易く。さうして。其難し。さうして。洗へく。思ひ。論を



仙家童女



蓬莱仙女

仙家童女









夏あえることして。本この田ちを立た出で水みづをひひ。ゆくこ三三町みり。むをむげよえ  
のまごべ。今いまもあつる草くさの庵いほいまあつる草くさの庵いほ消きかむく迹あとる  
なうて。ゆくもあつるどあるともかむえむ。色いろ慾よく團だんの中ちゆう郡ぐん。中ちゆう品ひん  
領りやうへ著つけり。

○總評

男女おんなこゝしの非ひ礼れいを野や合あといふ。その礼れいは要もとるふはあつ媒まへをりてと。男女おんなこゝしの節せつ  
と淫いん奔ほんといふ。その礼れいは要もとるふはあつ媒まへをりてと。男女おんなこゝしの節せつ  
別べつる。色いろを好あんで乱みだる。その妻さい妻さいは汚ける。礼れい節せつその人ひととたの妻さい子しよく  
合あつ。待まちまひいふ。番ばん琴しんと鼓こがど。和わ樂らくして且かつ樂らくむ。その樂らくへを樂らくむ  
と。真まの樂らくといふ。ゆく色いろを好あむとも可からうん。

夢想兵衛胡蝶物語卷之二終

